スローガン
信教の自由を守ろう
宗教協力を進めよう
世界の平和に貢献しよう

新宗教新聞

2016年（平成28年）
5月26日
第1078号

発行所
新宗教新聞
〒151－0053
東京都渋谷区代々木5丁目57番10号
電話（03）3468－5588〈代表〉
大阪支社　〒550－0006大阪市西区江之子島1丁目8番21号111
電話（06）6443－7178

新潟県中越地震の被災地を訪問

第3回新生復興祈念集会を開催

新宗連

復興の歩みを学ぶ

家族、地域が結び付き強い社会を

新日本宗教団体連合会（新宗連、保積秀胤理事長）は5月16、17日、新潟県長岡市で「第3回新生復興祈念集会」を開催した。同集会は東日本大震災を契機とし、「被災地を忘れない」「被災者に寄り添っていく」との思いで、これまで福島県福島市（2014年3月）、兵庫県神戸市（15年2月）で開催してきた。今回は「新潟県中越地震」（『栞』参照）の被災地を訪問し、慰霊を行うとともに復興の歩み、今後の災害への備えなどを学んだ。

保積理事長が「希望の鐘」を突いた後、一同で犠牲者慰霊と復興を祈った（やまこし復興交流館）

5月16日午後1時から、市内の会場で開会式。新宗連企画委員長の新井光興理事の先導で祈りを捧げた後、保積秀胤理事長があいさつ。熊本地震の本震からちょうど一カ月が経過したことに触れ、「神仏の御加護と共生の力によって、一日も早く、被災者が元の生活に戻ることができるよう、この地より復旧復興への祈りを届けたい」と語った。

長岡震災アーカイブセンター「きおくみらい」へ移動し、担当者から案内を受けながら見学。同センターは震災全体の知見や教訓を蓄積・発信する中核施設で、iPad（携帯情報端末）を使って、床一面に広がる被災地の航空写真の上を歩きながら、情報検索し、被災状況や復興状況などを知ることができる。

被災当時の様子や復興状況などを学んだ（長岡震災アーカイブセンター）

この後、長岡市議会議長の関正史氏と震災ボランティアの静子氏夫妻の案内で、旧山古志村を訪れた。やまこし復興交流館「おらたる」では、「希望の鐘」の前で祈りを捧げた後、山古志出身のスタッフの案内で、地形模型シアターやパネル展示を見学し、また仮設住宅の生活などを学んだ。

続いて、水没地域などを見学するとともに、同地域の文化・地場産業である「牛の角突き」を行う闘牛などを飼育する畜産場、錦鯉の養殖を行う養鯉場を見学し、地元の人々の思いなどに耳を傾けた。

長島忠美氏が講演

旧山古志村村長
復興副大臣

長島忠美 氏

17日午前8時半から市内の会場で、旧山古志村村長で復興副大臣の長島忠美氏が「山古志村全村避難の決断と復興への結束」と題して講演した。長島氏は、地震発災から時系列で当時の詳細な状況と、その時々の判断、思いを述べた。

全村避難の決断に関しては「村民に対して、村を捨てろと言えるのか」と自問自答したことを語り、「自然の猛威の前に私自身が負けそうになったが、村民の前では言葉に出せなかった」と当時の苦悩を打ち明けた。

全村民を避難させた後は、避難先で元の近隣同士が集まれるように引っ越しをさせ、コミュニティーの結束を図りつつ、一時帰宅の際に、ヘリコプターで上空から村全体の状況を見せ、復興への思いを共有してもらった。また、毎日深夜に避難所を巡り、孤立した人や不安で眠ることができない人がいないかを実見し、伝言ノートなども活用し、状況把握に努めた。

長島氏は失敗も率直に語った。その一つは、子どもたちのためを思って、悲惨な状況を見せないようにしていたことが、逆に子どもたちに疎外感を与えてしまったこと。避難所の子どもたちの様子からそれに気付かされた長島氏は「子どもたちのためにではなく、子どもたちのおかげで頑張ることができる」と判断の誤りに気付き、子どもたちにも被災状況をありのまま見せた。

最後に長島氏は「家族や地域の結び付きを強くすることによって、災害や犯罪に強い社会をつくることができる」と宗教界への期待も込め語った。

長岡市役所の防災本部を見学した後、ふりかえり。参加者からは、つながりの大切さ、人づくり心づくりに携わるものとしての使命感、リーダーとしての決断の重要さなど、感想が述べられた。

そうだ 選挙に行こう ②

今夏から18歳選挙権が適用

参議院議員選挙まで2カ月となり、各政党や市民レベルで若者に向けて政治に対する関心を高め、選挙へと誘う行動が活発化してきた。憲法改正や集団的自衛権の行使、安全保障などでは考えが異なるが、将来を真剣に考え、選挙を通し政治参加を訴える青年らの行動を中心に追ってみた。

政治に関心持ち投票を

デモや模擬投票で呼びかけ

SEALDs

2015（平成27）年6月、安倍政権の方向性に危機感を抱き国会前での抗議活動を開始したSEALDs（自由と民主主義のための学生緊急行動）。参院選挙については投票に行くだけでなく、政治活動を伴う選挙への「参加」を呼びかけている。

5月15日夕、有志の若者ら約4千人が新宿駅周辺で行った「7月参院選 投票にいこうよ」デモ（写真）と訴え、スピーチが続き、一貫して参院選へ投票を呼びかける内容となった。

デモに参加した大学院生の是恒香琳さんは、昨年4月からSEALDsの活動に参加。「政治は難しい、と参院選にも無関心な人が多い。けれども私たちの一票は未来を左右する大切なもの。このことを皆に知らせていきたい」と述べた。

SEALDsは参院選に向け、リーフレット「参院選2016ガイドブック」の配布を開始した。その中では「私たち一人ひとりの行動こそが、日本の自由と民主主義を守る盾となるはず」と訴えている。

日本青年会議所

社会貢献を理念に掲げる青年経済人の全国組織である日本青年会議所（JCI）には SEALDsのメンバーも参加。デモはラップ調のコールで「選挙に行こうよ」「政治を変えよう」「生活守れ、未来を守れ」などと訴え、スピーチが続き、一貫して参院選へ投票を呼びかける内容となった。

デモに参加した大学院生の是恒香琳さんは、昨年4月からSEALDsの活動に参加。「政治は難しい、と参院選にも無関心な人が多い。けれども私たちの一票は未来を左右する大切なもの。このことを皆に知らせていきたい」と述べた。

SEALDsは参院選に向け、リーフレット「参院選2016ガイドブック」の配布を開始した。その中では「私たち一人ひとりの行動こそが、日本の自由と民主主義を守る盾となるはず」と訴えている。

日本青年会議所

社会貢献を理念に掲げる青年経済人の全国組織である日本青年会議所（JCI）は2012（平成24）年、独自の「日本国憲法草案」と解説書を発表。その内容は自民党憲法改正草案に近い点がみられる。今月の憲法記念日に合わせた改憲派の二つの集会には、山本樹育会頭と青木照輝副会頭らがそれぞれ出席、JCIの活動をアピールした。

5月2日発表の「国民投票シミュレーション」中間報告では、JCI版憲法草案に「賛成」71%、反対29%という結果に。JCIは「憲法に関する国民の興味、関心を高め、一人でも多くの皆様からご自身の意思を示していただくようご協力をお願いします」と投票を呼びかけている。

憲法改正は参院選の大きな争点となる。JCIは3月15日からWebサイトでの「国民投票シミュレーション」を立ち上げ、憲法改正に関する模擬投票を展開中だ。7月15日までWebやチラシ（写真）で投票を呼びかけている。

立正佼成会

政治への関心を高め投票を呼びかける行動は、新宗連加盟教団でも出始めた。

立正佼成会が毎年5月に全国で展開する「青年の日」行動。今月15日、茨城県水戸市の立正佼成会水戸教会での「青年の日」行動には、「HERO～あなたと日本を変えていく」をテーマに、主体的に政治に関わっていくことの大切さが盛り込まれた（2面に詳報）。企画の一つとして参議院議員で民進党国際局長の藤田幸久氏が、トークショーを通して若者に政治への関心を高めさせ、選挙での一票の大切さを語った（写真）。

参加した青年は「これまでも選挙に行っていたが、（これまで以上に）候補者について理解する必要性を感じた」と感想を述べた。

参院選が間近となるにつれ、こうした動きはますます活発化することは必至だ。選挙権を与えられる18、19歳の若者たちが、多様なメッセージから何を選択するのか注目される。

酒々抄

不屈の遺伝子信じ

新生復興祈念集会で体得

第3回新生復興祈念集会に参加させて頂いた。今から12年前に発生した中越地震では、隣の群馬県に住む私としても生まれて初めての大きな揺れだった。

特にその日、妹の結婚式で、披露宴も終わり、夕方から家族と親戚が集まり二次会が始まったばかりの時だった。子どもも達も小さかったので、頻繁に起きる余震にとてもおびえていた。隣の県でもあれほどだったのだから、震源地近くの人達の恐怖は計り知れない。

今回、旧山古志村村長さんの話、また地域の方の話を聞かせて頂き、とても感銘を受けた。口々に、当時の全国からの援助に感謝する言葉と同時に、いつまでもそれに甘えることなく、自らスコップを持ち、一人ひとりが復興に汗を流したことを語ってくれた。

その大人達の姿を見ていた子ども達もまた自分の地域に愛着と自信を持つようになったそうで、まさに「災い転じて福となす」と感じた。

そこに至るまでには多くの葛藤があったと思うが、その折れない心、いつまでも「被災者」と呼ばれるのをよしとしない気概が凄い。

われわれは災害列島と言われるこの日本に生を受けた。好むと好まざるにかかわらず、いつどこで災害に見舞われるかは誰も分からない。そしてそれは今に始まったわけでなく、太古の昔より続いてきた。

その都度、ご先祖様方はその苦難を乗り越え、立ち上がってきた。その不屈の遺伝子が自分の中にもあることを信じたい。そして、もちろん熊本・大分の人達にも！

（新井光興・救世真教会長）

熊本地震

ボランティアを派遣

7月まで WCRP日本委と協働

熊本地震に際して新日本宗教青年会連盟（新宗連青年会、岩渕明大委員長）は、5月23日から7月15日まで熊本県阿蘇郡西原村にボランティアを派遣する。ボランティア派遣は世界宗教者平和会議（WCRP）日本委員会と協働し、実施。名称は「熊本地震復興支援ボランティア―VOWS（Volunteers of WCRP&SYL）for KUMAMOTO」。

今回の派遣は、新宗連事務局員による4月28日から5月1日までの現地調査を経て、WCRP日本委員会担当者との打ち合せを重ね決定したもの。派遣先となる西原村は4月16日未明の地震で震度7を記録。倒壊した家屋に住む人々は高齢者が多く、他の市町村に比べ復興が遅れることが予想されている。

VOWSは学生らが夏季休暇を迎えるまで、ボランティアが不足する今後約2カ月をめどに7次にわたり派遣する予定。5月20日、加盟教団にボランティア派遣に協力を求める案内状を送付した。

また新宗連は熊本地震の被災者救援のため、国際救援金の勧募を加盟教団へ引き続き呼びかけている。

宗教をめぐるさまざまな問題のご相談窓口
宗教もしもし相談室
03 3466-9900
受付●月曜→金曜／正午→午後4時
公益財団法人 新日本宗教団体連合会

栞（しおり）

新潟県中越地震　2004（平成16）年10月23日午後5時56分、新潟県中越地方を震源に発生した、マグニチュード6.8の直下型地震。死者68人、負傷者4,805人、避難した住民は最大で10万人となり、特に孤立した山古志村（当時）は全村民2,200人が避難を余儀なくされるなど、中越地方では未曽有の大震災となった。新宗連青年会は救援ボランティアを同年11月26日から12月19日まで4次にわたり被災地に派遣。水没地域の泥のかき出しや仮設住宅への引っ越し手伝いなど、現地の要望に応えさまざまな作業に従事した。（1面）

解脱会伝記編纂委員会編
新版 解脱金剛伝 全3巻
A5判 上製函装 定価3000円（税込み）
世相善導、人心救済への道筋を説かれた解脱会会祖・解脱金剛（岡野聖憲）の生涯を全1549頁、3巻に収めた。会祖亡き後、その人格に触れて自らの内に深い帰依心を培い、世のため人のために生きるための学びの土台となる書。第1巻＝生誕から事業の失敗、大成を経て宗教の世界に目覚めていく前半生を描く。第2巻＝昭和4年に立教して以来、人心救済の道一筋に生き、教えの土台を完成するまでの事績を辿る。第3巻＝戦時下の厳しい時代の中で縦横無尽に教えを説き、救済活動を展開し、遷化されるまでの歩みを記す。
解脱会
〒160-0007 東京都新宿区荒木町4番地
Tel 03-3353-2191(代表) Fax 03-3353-3055

清文社
宗教法人の税務調査対応ハンドブック〔宗教法人税制と法制の解説を含めて〕
石村耕治 編
A5判3780円
平成25年からの新・税務調査手続にも対応！
宗教法人と税務調査についての基礎知識を中心に整理し、コンパクトに解説した、実務家・宗教関係者必携の一冊。
公益財団法人 日本宗教連盟推薦！
〒101-0047 千代田区内神田1-6-6
☎03(6273)7946 FAX03(3518)0299
http://www.skattsei.co.jp〈価格税込〉

芸術生活社【芸生文庫】
高齢期を快く生きるための“人生の道しるべ”
老春誣歌（ろうしゅんおうか） 長生きの秘訣
御木徳近著
パーフェクト リバティー教団第二代教祖が、宗教家として悟りと長い人生経験、多くの人との出会いから、高齢期を心豊かに暮らすための新しい生き方を提唱する。■定価700円（税込）
〒150-0047東京都渋谷区神山町16-1
電話03-3469-1153 FAX03-3465-6867

奉祝!! 第62回 神宮式年遷宮
神宮祭祀の研究　中西正幸（国学院大学教授）
伊勢の神宮では、四季の彩りゆたかな恒例・臨時の諸祭典がとり行われている。そうした祭祀の淵源をたどると、おく神祇令に神嘗祭と神御衣祭とを初見し、神宮最古の文献というべき延暦二十三年（八〇四）の両宮儀式帳に、年中恒例祭や式年遷宮祭を掲げる。祈年祭・二節祭・踐祚大嘗祭などの主たる祭祀が古代において成立したことを前提として、本書では神宮の年中行事、恒例祭、諸祭・行事、式年・臨時祭、御料・職役、明治新祭式について多数の写真・図版で神宮祭祀に関する論考を集大成。一二六〇〇円
神宮式年遷宮の歴史と祭儀　中西正幸
神宮における遷宮関係の技術と知識の集積は、千三百年にわたる式年遷宮の歴史と伝統に相応しく、それこそ〈千古の生きた伝統の結晶〉の奥深さがあろう。殊に神宮文庫に所蔵される典籍・記録類は夥しく、しかも貴重なものである。本書では、神宮式年遷宮を総説・歴史・祭儀・造営・神宝の諸領域に分け、その現状と課題を概観。平成十年（天明奎月）の復刊。五二五〇円
国書刊行会 TEL 03-5970-7421 FAX 03-5970-7427
〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15
http://www.kokusho.co.jp(税込価)

著者自らが関わった借金脱出の実話を元に奇想天外なタッチで描いた愉快な実用小説
友を救う　太田哲二著
●推薦 清水康市（NPO東海事業支援機構理事長）
中小企業金融円滑化法は失効目前。銀行は、もう持ってはくれません。決断と再生の時です。再生ノウハウの一端が楽しく記載されています。
アートアンドブレーン 1900円+税
〒166-0001 東京都杉並区阿佐谷北1-8-22
電話03(5327)3766
お求めは、著者へ直接も可
携帯 090-9248-0845
FAX 03(3332)0672
PCメール info@ota-tetuji.jp

ひろさちやの『法華経』シリーズ！
【最新刊】
『法華経』日本語訳　ひろさちや
◎四六判上製 ◎定価1944円
当代きっての仏教解説者による『法華経』全28品の現代語訳。平易に親しんで読み進められるように、煩雑な逐語訳でもなく、原義を損ねる超訳でもない、斬新な翻訳スタイルで綴る。巻末に用語解説を収録。
【好評既刊】
〈法華経〉の世界　ひろさちや
◎四六判上製 ◎定価2160円
伝統的解釈にとらわれず、『法華経』を虚心坦懐に読むための案内書。
佼成出版社
東京都杉並区和田2-7-1〈定価税込〉
☎03(5385)2323 FAX03(5385)2334
http://www.kosei-shuppan.co.jp/

白馬社
合掌ができない子どもたち
浄土真宗本願寺派福賢寺住職 三上章道
四六判 定価1260円
「本願寺新報」の編集長を二十年に亘ってきた著者が、合掌ができない子どもたちとの出会いを契機に、戦後の日本社会が戦慄すべき「薄っぺらな社会」となったプロセスを追い、その原因が宗教心の喪失にあることを解き明かす。そして新たに現出した「原発問題」に、同根の原因があることを洞察していく。日本人の心の問題にする。どく迫り、根本的解決への提言をまとめた必読書。
〒612-8469 京都市伏見区中島河原田町28-106
TEL 075(611)7855 FAX 075(603)6752
http://www.hakubasha.co.jp 価格税込

春秋社
〈オウム真理教〉を検証する
そのウチとソトの境界線
地下鉄サリン事件から20年。オウムの深層をえぐり今日の問題に迫る。
2300円
［責任編集］井上順孝 ［編］宗教情報リサーチセンター
東京都千代田区外神田2-18-6
☎(03)3255-9611〈価格税別〉
http://www.shunjusha.co.jp/

新宗連 動き 総支部

負の連鎖を断とう

「子どもの貧困」テーマに学習会

近畿総支部が総会を開催

近畿総支部（鉢呂神龍会長）は4月22日午後2時から、大阪市西区の立正佼成会大阪普門館で「平成28年度総会」を行った。

第1部の学習会開会にあたり、鉢呂神龍会長と松本貢一副会長があいさつした。講師はNPO法人CPAO（シーパオ）大阪子どもの貧困アクショングループ代表の徳丸ゆき子氏で、「子どもの貧困」をテーマに講演した。

徳丸氏は、子どもの貧困の社会的背景について説明し、国の動きについて、「団体として、子どもの貧困解消に向け国へ積極的に働きかけている。結果、教育や生活の支援についてさまざまな体制が整いつつある」と一定の評価をした。「しかし、そこには予算がついていない。それでは問題の解消につながらない」と指摘し、「今後も、予算化され問題解消できるよう努めていく」と述べた。

また、独自にシングルマザー100人から聞き取り調査した結果を報告。厳しい環境下にある実例を挙げ、「親が子どもの頃に受けた悪い環境をそのまま継続している。この負の連鎖を断ち切らなければ子どもの貧困は解消しない」と述べ、命がけの活動を展開していると話した。

最後に「厳しい環境下に置かれてもなかなかSOSを出せない人が多くいる。その人たちがSOSを出せる環境を作るため、『まずは、ごはんから！』をテーマに子どもたちに食事を提供している」と話し、「食事を通して寄り添い、一人でも多く貧困から解放されるよう努めたい」と述べた。

徳丸氏は厳しい環境下にある貧困の実例を挙げ、問題解決に努めていることを話した

小憩後、第2部の総務会を開催した。深田充啓近畿総支部顧問のあいさつに続き、役員人事の報告があり、新任の藤井庸佐専門委員長、三觜富和総務、梶本博史奈良県協事務局長、後藤益巳滋賀県協事務局長があいさつ。平成27年度近畿総支部と各府県協議会の活動報告、同決算報告を行った。この後、本殿、御教祖様御墓所、教主霊廟、慈照殿の順で教団施設を参拝、見学した。また、円応教の藤井庸佐常任理事から、「円応教の沿革」「教義の本義」「教義の五綱目（まと・誠・愛・善・陰の行）」について説明を受けた。

午後は本殿で「おつとめ」を行い、参加者は導師に続いて「円応教日課勤行文」を奉読した。この後、「修法殿」に移動し、円応教独自の「自己と相手の救済」の一つである「修法」を体験した。

新宗連 動き 協議会

「修法」を体験

奈良県協

円応教本部に教団訪問

奈良県協議会（馬籠孝至議長）は5月12日、兵庫県丹波市にある円応教（深田充啓教主）本部へ教団訪問を行った。

午前10時15分に円応教本部に到着し、奈良県協の役員7人ははじめに深田充啓教主と面談。馬籠孝至議長が今回の教団訪問受け入れへの謝辞を述べた。この後、本殿、御教祖様御墓所、教主霊廟、慈照殿の順で教団施設を参拝、見学した。また、円応教の藤井庸佐常任理事から、「円応教の沿革」「教義の本義」「教義の五綱目（まと・誠・愛・善・陰の行）」について説明を受けた。

県協役員が深田教主と面談。同教主の話に聞き入った

午後は本殿で「おつとめ」を行い、参加者は導師に続いて「円応教日課勤行文」を奉読した。この後、「修法殿」に移動し、円応教独自の「自己と相手の救済」の一つである「修法」を体験した。

新宗連 平和学習会

全国の3総支部 1協議会で開催

新日本宗教団体連合会（新宗連、保積秀胤理事長）は「立憲主義の確立を求める運動」の一環として、4月から「信教の自由」と立憲主義について学ぶ平和学習会を全国の総支部・協議会で開始した（既報）。

5月は奥羽総支部が12日、岩手県盛岡市で山田匡男新宗連総局長を講師に開催したほか、北海道総支部（同日、登別市、講師・斎藤謙次新宗連事務局長）、中部総支部（16日、静岡県島田市、山田総局長）が開催した。また協議会では福井県協議会（22日、越前市、生田茂夫新宗連事務局次長）が開催した。

奥羽総支部で、「信教の自由」と立憲主義の重要性を語る山田総局長

平和学習会と併せ総支部総務会も

奥羽総支部と北海道総支部での平和学習会は総務会と併せて催された。12日の奥羽総支部総務会では、10月の新宗連全国総会の受け入れについて確認。同じく12日の北海道総支部総務会では、各協議会での「平和学習会」開催ほか、十勝地区協議会で8月7日に「緑ケ丘無縁故者慰霊供養」を実施することなどが報告された。また、16日の中部総支部は平和学習会を総会と併せて開催。平成27年度の総支部事業・決算報告、新宗連及び総支部の平成28年度事業計画・予算などが報告された。

新宗連 青年会

地方連盟キャラバンを実施

青東北連

平成28年度総会開く

新日本宗教青年会東北連盟（青東北連、浅野俊一委員長）は5月8日午後1時から、宮城県仙台市の大國神社参集殿で平成28年度総会を開催した。

総会に先立ち、午前10時20分から新日本宗教青年会連盟（新宗連青年会、岩渕明大委員長）が実施している地方連盟キャラバンを、佐藤香吾新宗連青年会委員のコーディネートのもと行った。

佐藤委員は「やむをえない戦争はあると思いますか」と問いかけ、5人一組のグループに分かれ、ロールプレイを行った（写真）。参加者が自身の考えや意見とは関係なく、政治家（戦争を容認）・宗教家（戦争に反対）・親（戦争に反対）・若者1（戦争に反対）・若者2（戦争を容認）の役割・立場になりきり、議論を交わした。普段は考えもしなかったことや、自分の考えとは正反対のことを考え、発言することで、相手の立場への理解と、自身の考えを深めることとなった。最後に佐藤委員が「多様な価値観に触れ、自分の価値観が揺さぶられたと思います」と述べ、相手の価値観の理解の先に平和があると語った。

この後総会を開催し、諸報告の後、新宗連青年会の各種行事の参加や、新日本宗教青年会関東連盟（青関連、鎌形至委員長）と合同で進めている「ピースフォーラム」について審議を行った。また、新たな役員や今後の青東北連が包括する各県委員会の運営などについて意見交換を行った。

【諸会議 報告】

靖国問題の本質、首相参拝訴訟などを学ぶ

信教委

新宗連信教の自由委員会（本山一博委員長）は5月9日午後1時半から、東京・代々木の新宗連会館で第28期第10回委員会を開催した。協議事項では、首相の靖国神社公式参拝についての意見書を今年も7月末か8月初旬に提出することとした。

小憩後、「靖国訴訟―信教の自由・政教分離の視点から考える」をテーマに学習会を催した。同明大学大学院特任教授で真宗大谷派僧侶、菱木政晴氏が講演。菱木氏は「小泉靖国神社参拝違憲訴訟」で原告団事務局長を務め、靖国問題に長く関わった経験をもとに「靖国問題」の本質は、靖国神社の祭神に対して感謝する「ありがとう」という立場、逆にアジア諸国の戦没者に対する謝罪である「ごめんなさい」という立場のどちら側に立つかによって、とらえ方が大きく異なることを説明。また、一連の首相靖国神社参拝訴訟における争点の違いなどを解説した。

人権啓発基礎講座とテーマ研修会を審議

同推協

新宗連同和推進連絡協議会（同推協、生田茂夫代表幹事）は4月25日午後2時から、東京・代々木の新宗連会館で平成28年度第1回定例協議会を開催した。

平成28年度事業計画の中の第28回人権啓発基礎講座とテーマ研修会について詳細を審議。基礎講座は、部落差別の歴史と現状、宗教者と部落差別問題を学ぶ場とし、9月12、13日に京都で開催。テーマ研修会は、今年4月1日に施行された「障害者差別解消法」の意義と宗教者の課題を学ぶものとし、来年3月に実施することを決めた。

妙道の仏縁に感謝

聖地で盛大に「両聖師大祭」

妙道会教団

大阪市天王寺区の妙道会教団（佐原慶治会長）は5月5日、滋賀県大津市の聖地で「両聖師大祭」を厳修した。同祭は、1951（昭和26）年2月4日に教団を開創した「聖師さま」（故佐原忠次郎師）、「普師さま」（佐原俊江師）を讃嘆渇仰する式典。

午前10時半、宝塔奉安殿の開扉で開式。祭壇に生花と「み灯」が捧げられた後、御旗、佐原慶治会長が入塔。導師が入場し、玄題三唱の後、塔中で佐原会長が祭文を奏上した。その後、会員は両聖師さまの出世と妙道の仏縁に感謝の思いを持ち、大音声で読経を奉った。

恭しく讃歎文が謳い上げられる中、塔中から佐原会長が両聖師の御真諦を奉持して祭壇に出て、「御真諦拝受の儀」を厳修。佐原会長が再度、入塔して宝塔偈奏上の後、佐原会長が出塔して「ご教示」を行い、「目に見えないものを観るという感性をご法で培い、両聖師をはじめ、先達導師のはかり知れない思いと祈りが鎮まる聖地を心で観じていただきたい」と語りかけた。聖訓・三大誓願を奉唱し、会歌斉唱をもって閉式した。

式典後、聖殿広場には家族連れの参拝者が溢れ、奉祝ステージやテントバザールも盛況で、教団の「親子の日」を楽しんだ。

新緑映える聖地で、宝塔奉安殿に生花と「み灯」を捧げる

熊本に心を寄せて

第17回みしぐみ徒歩修行

松緑神道大和山

青森県平内町の松緑神道大和山（田澤清喜教主）は4月24日、「第17回みしぐみ徒歩修行」を実施した。同修行は、田澤豊弘第二代教主が法燈継承にあたり、田澤清四郎教祖の足跡を慕い立教の原点を見つめ直し、神業奉仕を誓うため教祖入山記念日に行っていた。やがて別行事となり、本年で17回目を迎えた。

午前7時30分、青い森鉄道の小湊駅近くの広場で出発式。鈴木武幸代表総務のあいさつ、「歩行の心得」の唱和の後、田澤清喜教主を迎え清祓を行った。田澤教主を先頭に隊列を組み、号令に合わせて出発。途中2カ所で休憩をとりながら、約13キロ先の本部を目指した。出発前は冷たい風が吹いていたものの晴天に恵まれ、徐々に気温も上り、沿道の桜も満開の中、春を肌で感じながら歩み、正午前には本部へ到着した。

神集閣大ホールで到着式を行い、「体験教座」では参加動機や感想などを各班で振り返った後、全体会で発表。「今回は誘われてきたが、次はぜひ誘う側になりたい」「歩いた感動を支部の皆に伝えたい」など、さまざまな声が聞かれた。

田澤教主が登壇し「ご垂教」。熊本地震に触れ、「自然の驚異を感じる」と述べ、熊本にある支部の被災や徒歩修行の前日予定していた教主誕生祭の中止、支部の周年事業を延期したことを報告し、「私たちに何ができるか問い、祈ることができると思った」と話し、「今回は熊本の思いを背負って、みしぐみ徒歩修行を行った」と述べた。

最後に「皆さんには今回のみしぐみ徒歩修行を通して、神を求める一歩を期待したい。その一歩に無意味はない。それは熊本の勇気を支えると信じている。そして立教100年に向けていきたい」と呼びかけた。

晴天、沿道の桜が満開の中、田澤教主を先頭に隊列を組み歩む

円応教

「大きくなあれ」など掛け声をかけ、心を込めて聖地の神饌田に苗を植えた

喜び、楽しみを共有し

「子どもの日の祭典」多彩に

円応教（深田充啓教主）は5月5日、兵庫県丹波市の本部聖地で「子どもの日の祭典」を執り行った。

この祭典は、2001（平成13）年から「子どもの頃から、信仰に触れてほしい」という願いのもと開催されてきた。

祭典に先立ち、9時半から神饌田で「親子で田植え体験」。本殿遥拝の後、あぜ道を進み、参加者が一列縦隊に整列。田植えの前に自然農法やお米に関するクイズが出され、子どもたちから回答が次々とあがった。担当者から苗の植え方のレクチャーを受けた後、実際に田に入り、「大きくなあれ」などの掛け声で一列ずつ苗を植えていった。

祭典は午後零時半から、本殿礼拝所で行われた。4月14日に発生した熊本地震をうけ、2回にわたる支援部隊派遣の様子を収めたビデオの上映の後、田野伸二円応青年会会長が青少年信者を代表して、熊本復興祈念の言葉を述べ、参列者全員で犠牲者の冥福と早期の復興を祈った。「献上の儀」の後、熊本地震の犠牲者慰霊と復興を祈願し、子ども導師による「おつとめ」を行った。続いて、小学生と中学生を代表して少年信者2人が体験発表を行った。

特別企画「あいさつの大切さ」に移り、着ぐるみキャラクター「うさこ」と「とらお」が登場し、寸劇の中で、田植えの体験を通して、食べ物には命が宿っていることや、相手の目を見て話すことで気持ちが伝わることを説明した。会場入り口で配られた紙の花を手に、「ありがとうの花」を全員で合唱した。そして5月6日が教主就任40年の節目にあたることから、深田充啓教主の功績を讃えるビデオが上映され、深田教主に花束が手渡された。

深田教主が「御親教」に立ち、特別企画「あいさつの大切さ」に関連させ、信仰者として「心から、気持ちがほとばしるようなあいさつができることが大切です」と説いた。そして、「（子どもの日の祭典は）本部だけの祭典ではなく、子どもの為に教会でも祭典をして次の世代を担う子どもたちと一緒に信仰生活をすることが大事です」と語った。

最後に「来年は（教職員だけが準備する祭典ではなく）、信者の皆さまと一丸となって子どもの日の祭典を行い、多くの方々と喜びと楽しみを分かち合えるよう思い出に残る祭典にしていきましょう」と立教100周年を2年後に控え、意気込みを述べた。

第47回

全国で「青年の日」

水戸教会ではトークショー

立正佼成会

立正佼成会（庭野日鑛会長）は5月15日、全国の各教会で第47回「青年の日」を実施した。「青年の日」は地域社会や国家、世界の平和実現のために具体的な菩薩行を実践し、その活動を通して青少年育成を図るもの。テーマは『大志～社会変革の風をおこそう』で、1970（昭和45）年以来、毎年5月の第3日曜日を中心に開催されている。

茨城県水戸市の立正佼成会水戸教会（矢部光男教会長）は午前10時から、「HERO～あなたと日本を変えていく」をテーマに開催。テーマには「自分たちが主役」という意味が込められており、主体性を持ち政治などに関わっていくことの大切さが含意されている。

はじめに教団が取り組んでいる「アフリカに毛布を送る運動」に現地ボランティアとして参加した、水戸教会の青年ら4人が報告。この後、参議院議員で民進党国際局長の藤田幸久氏によるトークショーが催された。その目的は、選挙権が18歳以上に広げられることから政治への関心を高め、「一票を投じる」意義の大切さをかみしめること。

藤田氏は、政治に関心を持ったきっかけや立正佼成会との関わりなど、自身のこれまでの歩みを説明。そして「政治が生活を規定している」と強調し、自由民主党の憲法改正の動きを「大変危険」と懸念を表し、7月の参議院議員選挙を重要視し、「政治の問題を、皆さんの問題として」捉えるよう呼びかけた。

この後、事前アンケートをもとに質疑応答。「昨年9月に可決した安全保障法制を廃止するにはどうすればよいか」との質問に対して藤田氏は、選挙と国民運動が大切だと回答。安全保障法制にのっとり自衛隊を派遣するには、国会での承認が必要であることを指摘し、参院選により自民党以外の議員が多くの議席を得ることができれば、自衛隊派遣の承認に歯止めをかけることができ、事実上の廃止に持ち込むことができると説明した。このほか年金や貧困の問題、テロへの不安などについて質問が寄せられた。

水戸教会でのトークショーと平行して水戸駅前では、少年部による「一食ユニセフ募金」が行われた。

企画・運営に携わった青年は「政治に興味のない人ばかりだと思っていたが、少なからず興味がある人がいることが分かった」「多くの質疑応答ができて、良いトークショーになった」と話した。

参院選の重要性や安保法制廃止、貧困などについて語る藤田氏

堀内光雄氏 逝去

千鳥ケ淵戦没者墓苑奉仕会会長

千鳥ケ淵戦没者墓苑奉仕会会長で元衆議院議員議員の堀内光雄氏が5月17日、間質性肺炎のため東京都内の病院で逝去した。86歳。富士急行社長を経て、1976（昭和51）年に衆議院議員に初当選後、2009（平成21）年まで10回当選。この間、労働大臣、通産大臣、自民党総務会長などを歴任した。13（同25）年4月から、千鳥ケ淵戦没者墓苑奉仕会会長を務めていた。

堀内家・自民党・富士急行の合同葬は5月30日午後1時から、東京都港区青山2―33―20の青山葬儀所で営まれる。喪主は長男の堀内光一郎氏。

春の大祭

各地で斎行

熊本地震 復興願う祈りも

恒例の奉納庖丁式　大神教

大祭の無事斎行を感謝

大神教（西野新也管長）は4月20日午前11時から、奈良県桜井市の本部神前で「春季大祭」を斎行した。

雅楽が奏でられる中、斎主の西野新也管長をはじめ、斎員が入場。修祓、祓詞の奏上の後、西野斎主が「神祠」と「霊祠」に向かい、一拝を行った。開扉、警蹕、献饌に続き、西野斎主が祝詞を奏上し、参列者全員で大祓詞を奏上した。

春季大祭恒例の「奉納庖丁式」が行われ、大神佐伯正蔭流の泊野正志家元が「雨後の鯉」の式題で包丁を披露（写真）。包丁と金箸だけを使い、大まな板の上で鯉を華麗にさばき、再び元の姿に戻し三方に盛り付け、神前に奉納された。

浦安の舞の奉納と清めの「お鈴祓い」が行われた後、斎主、斎員に続いて責任役員、教師代表、来賓などが玉串拝礼を行った。

この後、西野管長が大祭を無事斎行できたことへの謝辞を述べるとともに、「熊本で起きた地震は想像を絶する。現地は大変厳しい状況が続いている。この地震が早くおさまるよう神様にお願いし、勤めさせていただいた」と被災者への思いを述べ、「この大和の地は天変地異がない。三輪の神様に感謝申し上げたい」と結んだ。

耐えて、感謝して　神ながら教

神ながらの道でお陰を

神ながら教（水野富久子教主）は4月23日正午から、愛知県名古屋市の本部教会で「春季大祭」を斎行した。

雅楽奏上の中、斎主の水野富久子教主、斎員が入殿し着座。修祓、献饌を行い、斎主が祝詞を奏上した（写真）。「浦安の舞」で神賑を行った後、玉串奉奠。続いて、一同で大祓詞を奏上、「讃仰歌」を奉唱した後、斎主が「御神諭」を奉読した。

小憩の後、水野教主が「みさとし」。信者の信仰体験を紹介し、「神ながらの道を行けば、誰でもお陰を頂けます」と語った。また、「苦しい行も必要です。苦しさに耐えることが大事で、そうすると何が起きても乗り越えられるという自信になります」と述べた。最後に、「何事があってもありがたいと感謝して、乗り越えて、神のみさとしを自分のものにしてください」と呼びかけた。

白煙の中、火渡り行　大三輪教

諸願成就を祈念して

大三輪教（迫泓管長）は4月24日午後1時から、奈良県桜井市の三輪山中腹にある本部・本院で「春季大祝詞」を奏上して九字を切った。二人の斎員が本院神前に捧げられた灯明から竹筒に火を移し気合を込めて護摩壇に炎を点火、徐々に大きな炎が立ち上がった。参列者が般若心経を読誦する中、信者が「身体健康」「病気平癒」「家内安全」などの願意を記した護摩木を、九字を切りながら燃え盛る火の中に投げ入れた。

すべての護摩木が燃えた後、炭の上に清めの塩が撒かれ、青葉を敷いての「火渡りの行」に移った。裸足になった信者は、白煙が立ち込める青葉の上を、一人ひとり諸願成就を祈念し渡った（写真）。

神刀で除魔招福　天心教

怠らず信仰に精進を

大阪府羽曳野市の天心教（天元教主）は4月24日午後2時から、大阪府柏原市の大県教会で「春季大祭」を斎行した。

太鼓の音とともに斎主の天元教主、斎員が入座した。斎員による「身禊祓詞」奏上、「大麻の儀」、斎主による開扉、献饌、井口とも子輔弼による献茶の後、斎主が「猿田彦五十鈴の儀」を行い、真剣の神刀を振るって、参列者に除魔招福を授けた（写真）。斎主による「大祭祝詞」「天地合掌詞」、斎員による各種祝詞の奏上などの後、斎主の玉串奉奠に続いて参列者が玉串を奉奠した。

信者を代表して山田祐五氏が礼辞を述べた後、天元教主が登壇して「聖教」を行い、「惟神の道に精進していただくと、神様の御加護がいただけます。日々、怠ることなく、信仰に励んでください」と述べた。

この後、もちまきと大護摩行事が行われた。

災害に対し備えを　大日然教

大神様のお守りを信じ

大日然教（折茂美枝代表役員代務者）は5月5日午前10時半から、東京・西新宿の本部で、「春季大祭」を斎行した。

折茂美枝代表役員代務者の祭主のもと、太鼓の合図で開式。「君が代」斉唱、参列者による拝礼と祝詞奏上に続き、祭主が神前に着座し大祭祭文を奏上した（写真）。玉串奉奠を祭主と来賓、参列者が行い、一同で「大日然教奉唱歌」を奉唱し祭儀を終了した。

この後、折茂代表役員代務者があいさつ。余震が続く熊本地震について、避難生活を続けている被災者の苦労に心を寄せ、被災者救援のため新日本宗教団体連合会（新宗連）の国際救援金に寄付金を送ったことを報告した。そして「大神様にお守りいただいていることを信じて、災害などに対する日頃からの備えをしっかりと準備しておくことが大切です」と述べた。また、新宗連スローガンを心にとめ、生活していくことの大切さも説いた。

場内に勇壮な掛け声　大和教団

祈祷殿で御神像神輿引く

大和教団（保積秀胤教主）は4月29日午前10時から、宮城県仙台市の大國神社で「大國神社例大祭」を斎行した。大國神社のある大市山（おいちやま）は仙台市の北西部にあり、山頂には大國神社本宮が鎮座する。

斎主の保積志胤統理と祭員に続き、保積秀胤教主が祈祷殿に入殿。開式に先立ち、参列者一同で戦争犠牲者と東日本大震災及び熊本地震犠牲者の冥福を祈り、黙祷を捧げた。

開式の後、修祓、開扉に続き、斎主が昇殿し「世界平和祈願詞」を奏上。この間、祈祷殿西回廊前では「心願諸願成就火祭祈祷」が執行された。

「本宮拝詞」「神徳称賛辞詞」の奏上に続き、斎主が玉串拝礼を行った。祭員が参拝者に、大比禮と金弊を振る神事と、斎主が「御神威（みいず）」を拝戴する神事が行われた後、保積統理と保積教主が玉串を奉奠した。

祭儀を終え、保積教主があいさつ。東日本大震災復興も祈念する同大祭の意義を説いた後、「本日は慶び の日です。ご参拝の皆様、今日一日を心から楽しんで下さい」と述べた。祈祷殿では「神輿布留大神業」が行われ、参拝者は紅白の太い綱を手にし、「御神像神輿」を引く勇壮な掛け声が場内に響きわたり、堂内は熱気に包まれた（写真）。

先祖供養の大切さ　大慧會教団

生かされていることに感謝

大慧會教団（石倉恒男会長）は5月3日午前11時30分から、大阪府堺市の本部殿講堂で「第66回春季大祭」を執り行った。

点鐘、礼拝、玄題三唱、内々陣の開扉が行われ、大慧會会歌などを斉唱した後、石倉寿一次代会長が登壇して「慶白文」を奏上。多寶佛塔の建立が着々と進んでいることに感謝し、熊本地震にも思いをはせ、被災された方々へ見舞いの言葉を述べた。

石倉次代会長の導師による大乗経典奉読に続いて、会員を代表して第19支部の山本増美支部長、第21支部の中村富貴子支部長が体験功徳の決定を発表した。

石倉恒男会長が登壇し法話（写真）。「先祖供養は人生のパートナー」と述べ、「パートナーが欠けると想像しただけでゾッとする。ここにおられる仲間も誰ひとり欠けても悲しい。先祖供養もそれと同じ」と、先祖供養の大切さを説いた。そして「世の中で人生より価値あるものはない。その人生はご先祖様がおられたからこそ。声を出して先祖供養すると、ご先祖様が休まる」と話し「生かせていただいていることに感謝。その成果は必ず本人から子に、子から孫に現れてくる」と結んだ。

最後に、石倉次代会長の発声で決定表明へ万歳三唱を行った。

人心の荒廃を憂う　大和教

諦観せず立ち向かって

大和教（保積敬子教祖）は5月8日午前11時から、宮城県塩釜市の本庁・神殿で「春季例大祭」を斎行した。開式にあたり、光永輝彦祭典委員長があいさつに立ち、今年10月19日に教団の呼称を「大和神社」と命名することを報告、地域社会へのさらなる貢献、信者の教化育成に努めることを表明した。

斎主の保積敬子教祖と斎員が入殿。「祓詞」奏上、大麻祓いの儀を行った後、斎主と斎員が神前の護摩壇前に進み、保積教祖が祝詞を奏上（写真）。護摩壇に火が点され、斎員の後方に着座していた信者の代表者が祈願者一人ひとりの名前と諸願を読み上げた。保積教祖は東日本大震災、熊本地震犠牲者御霊の平安と被災地復興も祈願し、白煙が立ち上る中、祈祷が続けられた。

保積教祖と責任役員、来賓、各教会の代表者による玉串奉奠、来賓祝辞が続いた。この後、保積教祖が「お言葉」を述べた。「大神様」は人心の荒廃や、国の根底を覆すような災害、人災に対し、憂い嘆いていることを伝え、「これを諦観することなく、一人ひとりが徳を磨き、利他の働きに務め、互いに励まし合っていくことが大切」と説き、混迷の世に立ち向かう心構えを伝えた。

直会では、歌や手品などの余興、毎年恒例の抽選会などを行った後、3人の信者代表が大和教の教えによって救われた体験を発表して保積教祖に「感謝のことば」を伝えた。また「母の日」にあたり、信者たちの「母」である保積教祖に花束が贈られた。

今、日頃の学び発揮　解脱会

被災地からも会員が参列

東京・四谷の解脱会（岡野聖法法主）は5月7、8日、埼玉県北本市の御霊地で「第168回春季大祭」を執り行った。

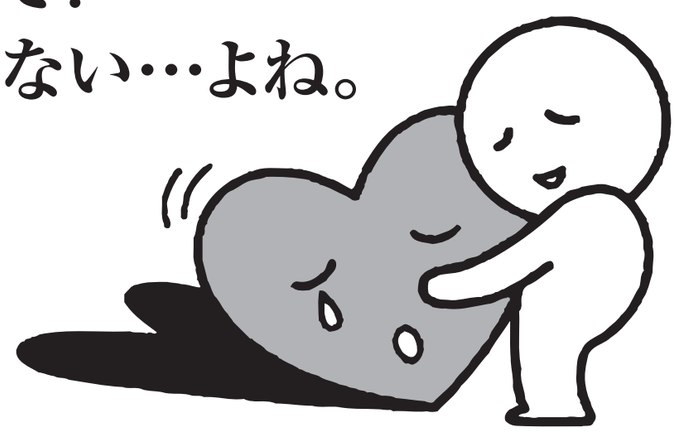
8日の本祭式典は、午前11時の開式に先立ち鼓笛隊のパレードが行われ、岡野聖法法主と岡野英祥法嗣、岡野英夫理事長が壇上から見守る中、国旗・本部旗・青年部旗・全国支部旗が入場した。

この後、太鼓の合図で開式。国歌斉唱、拝礼行事に続き、岡野聖憲会祖（解脱金剛尊者）の「み声」（録音）を拝聴した。「おみたま櫃」が萬霊魂祭塔前に奉迎安置され、青年女子と婦人部により、献華、献茶、献天茶が厳かに行われた。引き続き同塔前で「萬霊大供養」が執り行われた。

岡野法主が式辞に立ち、前日7日の式典に熊本地震の被災地を含む九州地区から会員が参列したことを報告し、「神々様、金剛様の力を信じて、お互いに励まし合いながら、一歩一歩前進していきましょう」と声をかけたことを紹介した。また「宗教は人心の救済に尽くすものであり、今こそ日頃の学びを発揮する時です」と説いた。

この後、来賓祝辞、会歌斉唱と続き、最後に熊本地震の犠牲者を悼み、特別供養が行われた（写真）。

ひとりで悩まず電話して！
ホントにつらい時って誰にもいえない…よね。



●必要に応じて面接をしています。
●手紙でのご相談にも応じています。
●秘密は守られます。
●相談は無料です（通話料はかかります）。
●金銭的な援助はできません。
●医療・法律・教育関係の助言や指導は、専門家にお願いします。
●特定の思想・宗教・政党などとは一切関係ありません。

●東京自殺防止センターは国際ビフレンダーズの一員です。
●私たちは国際ビフレンダーズ憲章に沿って活動しています。

NPO法人　国際ビフレンダーズ
東京自殺防止センター
03-5286-9090
年中無休、夜8時から翌朝6時まで
火曜のみ午後5時から翌朝6時まで
〒169-0072　東京都新宿区大久保3-10-1 日本基督教団シロアム教会内
事務局電話番号　03-3207-5040（FAX 03-3207-5098）

●全国にある他の自殺防止センター
国際ビフレンダーズ 大阪自殺防止センター　06-6260-4343　毎週金曜、午後1時から日曜、午後10時まで
国際ビフレンダーズ 宮崎自殺防止センター　0985-77-9090　毎週日曜・月曜・水曜・金曜、午後8時から午後11時まで
国際ビフレンダーズ 岩手自殺防止センター　019-621-9090　毎週土曜、午後8時から午前4時まで
国際ビフレンダーズ あいち自殺防止センター　0568-70-9090　毎週土曜、午前0時から午前5時まで

憲法記念日

改正推進、反対両派が行動

施行から69年を迎えた「憲法記念日」。同日をはさみ、改正派と反対派の大会、集会が東京で相次いで開催された。昨年来、世論を二分している憲法改正の議論、また今夏の参議院議員選挙を控え、署名活動の報告もあり、両派とも危機感に満ちた内容となった。

国民主体の改正作業 全国で運動展開願う

新憲法制定議員同盟

新憲法制定議員同盟（中曽根康弘会長）は5月2日午後3時半から、東京・永田町の憲政記念館で、「新しい憲法を制定する推進大会―『自立と共生』に向けて」を開催した。

第1部では、百地章日本大学教授と渡部昇一上智大学名誉教授が記念講演。百地氏は、新しい憲法には「国柄（日本らしさ）」の明記が重要だと述べ、さらに、喫緊の課題として緊急事態条項を憲法に追加することを挙げ、速やかな憲法改正を訴えた。また渡部氏は、現行憲法はGHQの「間接統治基本法」であると述べ、「主権が日本にあった頃の大日本帝国憲法（明治憲法）に戻すべき」と訴えた。

大会決議を読み上げ、満場の拍手で可決

また、雅楽師の東儀英樹氏が篳篥（ひちりき）の演奏を披露、日本の伝統芸術、文化を守っていく大切さを話した。

第2部では、新憲法制定議員同盟の愛知和男幹事長と中曽根康弘会長があいさつ。中曽根会長は「新しい憲法を制定するために、さまざまな弊害を一つずつ解決する必要がある。共に運動を推進していきましょう」と呼びかけた。続いて自民と民進、公明、維新などの各党、経済団体、青年団体、地方連盟代表があいさつを行った。

最後に、大会決議案が読み上げられ可決された。この中で「生活実感に起因する意見を、直接草案に反映させる機会」を望むとし、「国民が主体となる憲法改正作業が全国で展開されるよう念願するものである」と訴えている。

改正は緊急事態条項から出発を

民間憲法臨調

憲法改正を目指す「『21世紀の日本と憲法』有識者懇談会」（民間憲法臨調、櫻井よし子代表）らは5月3日午後1時半から、東京都千代田区の砂防会館で「第18回公開憲法フォーラム」を開催した。

主催者代表あいさつで櫻井よし子代表は国内外の課題が山積するなかで、憲法改正は「核心の課題」と述べ、改正へ向けて「まず緊急事態条項を入れることろから出発するのが良い」と、国民への理解を求めていくことを訴えた。

フォーラムでは民間憲法臨調などが行っている改憲賛同署名が700万2501人、国会議員427人、地方議会決議が33都道府県に達したことが報告され、さらなる運動展開が呼びかけられた。

安保法案の廃止署名 1200万人分提出

市民民団体らが集約

5月19日午後2時から、東京・永田町の衆議院第1議員会館で、安全保障関連法制の廃止を求める「2000万人統一署名」集会が開かれ、当日までに集約された署名1200万人分が民進党、共産党、社民党の党首に提出された。

署名運動は、市民団体29団体が全国で展開しているもので、6月末までに目標の2000万人署名を目指し、今後も運動を継続していく。

憲法、平和、人権守れ 各氏・団体がアピール

市民団体らが集会

5月3日午後1時から、東京都江東区の有明防災公園で「明日を決めるのは私たち―平和といのちと人権を！ 5・3憲法集会」が開催された。主催は市民団体らで組織する同集会実行委員会。

法政大学教授の山口二郎氏、故菅原文太氏の妻で社会活動家の菅原文子氏、ジャーナリストのむのたけじ氏、早稲田大学大学院教授の浅倉むつ子氏らがスピーチを行った。

むの氏は今年101歳。元朝日新聞記者で、先の大戦で従軍記者を経験し、戦争協力の責任を痛感して朝日新聞社を退社。戦後は地元の秋田県に戻り、週刊紙を発行し、反戦平和を訴えてきた。

車イスで登壇したむの氏は自身の戦争体験をもとに、「戦場では本能に導かれるようにして、道徳感が崩れる」「戦争によっては、社会の正義や人間の幸福は実現できない」などと語り、「戦争は始めてしまったら止めようがない」と訴えた。

むの氏らのスピーチの後、野党各党代表があいさつ。最後に沖縄の基地、福島原発、障がい者差別、人種差別、TPP、教育、労働法制、子どもの貧困など、さまざまな社会問題にそれぞれ取り組む各団体の代表がリレートークを行った。

集会終了後には、2コースに分かれ、「憲法を守れ」「戦争法廃止」などのプラカードを掲げ、パレードを行った。

「戦争は始めたら止めようがない」と訴えるむの氏（壇上、中央）

第33回庭野平和賞 「和解と平和構築センター」に

内戦の人々の心癒し 和解への活動称える

庭野名誉会長からディシャーニ氏（中央）、ジャヤンタ氏（右から2人目）に表彰状などが贈られた

庭野平和財団（庭野日鑛名誉会長、庭野浩士理事長）は5月12日午前10時半から、東京・六本木の国際文化会館で「第33回庭野平和賞贈呈式」を開催した。

第33回受賞者である、スリランカの「和解と平和構築センター」（CPBR）共同設立者であるディシャーニ・ジャヤウィーラ氏とジャヤンタ・セネヴィラトネ氏に、庭野日鑛名誉会長から、表彰状と顕彰メダル、副賞として2千万円が贈られた。

贈呈式では、庭野平和賞委員会のビルギッタ・ランタカリ委員長による選考結果報告のほか、馳浩文部科学大臣（代読）、ダンミカ・ガンガーナート・ディサーナーヤカ駐日スリランカ大使、齋藤明聖日本宗教連盟理事長が祝辞を述べた。

庭野名誉会長のあいさつでは、「内戦によって傷ついた人々の癒し、民族間、宗教間の和解を目指して活動を続け、いまだにくすぶる怨みや怒りの心を乗り越え、真の和解を築こうと地道な努力を続けている」と、CPBRの根底にある宗教的信念と活動を称え、より多くの人々によってCPBRの願いと行動が共有されることを期待した。

記念講演で、ディシャーニ・ジャヤウィーラ氏は「支え合いの大切さを強く信じる私たちは、宇宙とは『相互関連が織りなす網』であり、『相互結合が織りなす網』であると考えます」と述べ、「相互依存」と「共存」という二つの中心的価値を政治、経済、環境、教育など、あらゆるシステムの中心に据えていく必要性を訴えた。

そして、多様性を促進し草の根の意見をまとめるなど、人々の結び付きの力によって、権力の集中化を排除し、民主的な社会や国家を築いていくというCPBRの構想を説明した。

支援活動の広がりに期待

連携し体制の構築が急務

宗援連情報交換会

宗教者災害支援連絡会（宗援連、代表＝島薗進上智大学教授）は5月2日午後2時半から、東京・本郷の東京大学・山上会館で第26回情報交換会を開催した。開会にあたり、参加者一同で平成28年熊本地震及び東日本大震災犠牲者の冥福を祈り黙祷を捧げた。

この後「神主さんと京の社を巡ろうの会」代表・金田伊代氏（神道）が、東日本大震災での京都における被災者支援活動について、「福島こども保養基金」代表・結柴依子氏（真宗大谷派）が、福島県での子どもらの被曝問題と保養活動について報告。また、神戸国際支援機構代表・岩村義雄氏が、東日本大震災や熊本地震などボランティの現状と課題について報告した。

この後、熊本地震の復興支援活動について東本願寺、真如苑、新宗連、世界宗教者平和会議（WCRP）日本委員会などが活動状況を報告。宗援連の世話人でもある稲場圭信大阪大学大学院教授は「被災地では、民間団体による懸命の支援活動が続けられている。今後、各地の社会福祉協議会等との連携も必要。支援する人を支えていく体制の構築が急務となってきている」と語った。

また、島薗進代表は「熊本地震では、宗教・宗派を超えた支援活動が広がってきている。東日本大震災の時にはなかった動きだ」と語り、宗教団体相互の協力による支援活動の広がりに期待をにじませた。

アジアとの協調、自民憲法改正草案の問題点

政教分離の会 公開学習会

政教分離の侵害を監視する全国会議（政教分離の会、西川重則事務局長）は5月14日午後1時半から、東京都文京区の日本基督教団西片町教会で公開学習会「『愛国』と信教の自由・政教分離―安倍改憲に抗して」を開催した。

はじめに西川重則事務局長があいさつ。安倍政権下の安全保障関連法制成立や改憲、靖国神社参拝などに危機感を表した。

この後、元基督教大学教員で憲法研究者の稲正樹氏が講演。「愛国」をキーワードに、アジア諸国への植民地支配と侵略を詫びた「村山談話」（1995年）を挙げ、「和解と協調の関係を北東アジア地域で確立すべき」と述べ、愛国心の発露としての戦争責任の追及を求めた。

また、自民党憲法改正草案については、「天賦人権」と「個人の尊厳」の削除や、「公益及び公の秩序」のもと基本的人権が形骸化されており、信教の自由と政教分離については靖国神社への公人参拝を許す「重大な改変を提案している」と草案の問題点を指摘した。

解説 信教の自由とは何か 1

宗教の選択は生き方を規定

「基本的人権の根源」として大事

新日本宗教団体連合会（新宗連）は1951（昭和26）年の結成以来、「信教の自由」を守るための活動に取り組んできた。今回から始まるこの連載では、新宗連が今年2月に発行したパンフレット『信教の自由とは何か。』（写真）をもとに、「信教の自由」についての考え方と、その大切さを示していきたい。

◆◇◆

Q1 「信教の自由」とは何でしょうか？

A1 「信教の自由」とは「自分が信じたい宗教を信じることができる」ということです。

Q2 「信教の自由」は宗教を信じていない人にとっては関係ないですよね？

A2 「何も信じないこと」も「信教の自由」で守られていますので、無関係ではありません。（パンフレット『信教の自由とは何か。』より抜粋）

「信教の自由」とは「自分が信じたい宗教を信じることができる」ということであり、「何かを信じる」ということは、「何かを信じない」ということとコインの表裏の関係にある。

つまり「信教の自由」とは、①自らが望む、いかなる宗教も信じることができる②自らが望まない、いかなる宗教も信じなくてよい―という二つの側面をもつ。

日本では憲法第20条で「信教の自由」が守られている。そのため、自らの人生を規定する宗教への所属を自分で「選択」し、決めることができる。

所属だけでなく、現在では、たとえば葬儀では仏教式、結婚式はキリスト教式だけでなく、宗教に関わる／関わらない「自由」も含まれる。所属する／しない、関わる／関わらない―というこの選択は、自らの生き方、世界観を規定し、それぞれの人生を左右するほどの大きな選択なのである。

つまり、宗教を選択する「自由」とは、宗教団体への「所属」で行うなど、その時々によって、宗教との関わりを選ぶこともできる。もちろん、仏教式での葬儀を強制されたり、教会での結婚式を義務付けられたりはしておらず、全く宗教と関わらない葬儀や、人前結婚式を選択することもできる。

宗教と自分との関係を決める権利である「信教の自由」は、つまりは生き方を決める自由でもある。宗教はそれぞれの根本的な生き方を規定するため、「信教の自由」が成り立たなければ、他のあらゆる基本的人権が成り立たない。したがって、「信教の自由」は「基本的人権の根源」と言える。

また「信教の自由」には、宗教を信じない自由も含まれ、「宗教に関わらない」と決めることも、「信教の自由」が保障されているからこそいえる。「自分は宗教に関係がない」と思っている人にとっても、「信教の自由」は根本的に大事なものなのである。

震災の記憶 風化させない

ブータン国王恵贈のイトスギ植樹

兵庫県と京都ブータン王国交流協会

4月25日午後2時から兵庫県三木市の県立三木総合防災公園桜の広場入口で「大震災復興・支援記念―ブータン国国王ご恵贈イトスギ植樹式」が行われた。主催は兵庫県と京都ブータン王国交流協会（左藤滋光代表理事）で、東日本大震災からの復興を願ってジグミ・ケサル・ナムゲル・ワンチュク第5代国王から寄贈されたイトスギの苗木のうち1本を植樹するもの。

左藤代表理事㊧と柴田議長が植樹

主催者を代表して、兵庫県の金澤和夫副知事と、京都ブータン王国交流協会の有馬頼底名誉総裁があいさつ（左藤滋光代表理事代読）。金澤副知事は熊本地震に触れ、「熊本で被災された方々にお見舞いを申し上げます。阪神淡路大震災から20年経過しているが、その記憶を風化させないためにもこのイトスギを育てていきたい」と述べた。

また、左藤代表理事は「（国樹であり聖木であり）祈りの木とも言われるイトスギには、木の成長とともに復興が進んでいくことを願う国王さまの気持ちが込められています」と述べた。

この後、植樹鍬入れの儀に移った。金澤副知事、左藤代表理事、新宗連兵庫県協議会の柴田正美議長らが2人1組で順次、植樹したイトスギの周りに土を被せた。

新刊紹介

公明党―創価学会と50年の軌跡

薬師寺 克行 著

著者は、朝日新聞政治部長などを歴任し、戦後の日本政治史を研究している政治学者。本書は、ジャーナリスト時代に培った人脈をもとに丹念な取材を重ね、公明党50年の歩みを客観的に分析したもの。

公明党は周知の通り、創価学会を支持母体に持ち、国政選挙で常に700万票以上を獲得し、自民党、民主党（現・民進）などに次ぐ強固な政治勢力となっている。また、1990年代以降は、細川連立政権、野党第一党であった新進党への合流、自民との連立政権と、常に与党あるいは政治の中枢に身を置いてきた。

前身の創価学会文化部が1956（昭和31）年の国政選挙へ進出して以来、公明党は社会の広範な注目を集め、これまでもジャーナリストや宗教学者を中心に研究書や批判本が出版され、その在り方が問われてきた。しかし、政治史の観点からの客観的な分析という意味で、本書は貴重な著作といえる。

当初「仏法民主主義」を掲げた公明党は、言論出版妨害事件後、「政教分離」を宣言した（1970年）。この結果、高度に抽象的な理想を掲げている宗教団体をバックにした政党が、実は最も現実主義的になった。また、日本社会の構造変化を背景に揺れ動く保守革新両勢力のはざまで翻弄され、意図せざる結果として、政局のキャスティングボード（決定権）を握ったこと、そのことによって、公明党―創価学会が変質してきたと分析している。

公明党という特異な小政党のフィルターを通して見ることで、戦後日本政治史における権力闘争の軌跡が浮き彫りになった。また、宗教と政治の関わり方を考える上でも示唆に富む内容である。（中公新書　288頁　定価907円）

貧困世代―社会の監獄に閉じ込められた若者たち

藤田 孝典 著

非正規雇用の拡大、問題視されてきた就業者への理不尽な搾取を行うブラックバイトやブラック企業、学費高騰化などによる奨学金返還の延期―。本書は、現在の若者の置かれた経済的、精神的に厳しい現状を多様なデータと識者の見解などを駆使し分析、「日本史上でも類を見ない、特異な世代」の窮状と社会福祉としての支援を訴える。

著者は、将来、年金では暮らせず9割の老人が生活保護を受けると分析した、ベストセラー『下流老人』を著わしホームレスの相談支援にあたっているNPO法人「ほっとプラス」代表理事。本書では多くの実例を挙げて「若者＝弱者」の実像をつぶさに解説する。

その中で指摘されるのが、大人が若者の「貧困」を理解できないこと。「働けば収入を得られる」「家族が助けてくれるだろう」「昔はもっと大変だった」「若いうちの苦労は一時的なもの」など、こうした大人の考えは「神話」であると指摘し、データをもとに検証する。若者たちは1991（平成3）年以降のバブル経済破綻と経済低迷が続く「失われた20年」のまっ只中に置かれており、社会構造の問題であるのに政府は若者支援を必要ないととらえている。

ブラックバイトで授業にも出られない、アパートを借りる資金がなく友人宅やネットカフェ、脱法ハウスに暮らす、将来は結婚や出産もできない。こうした現実を、大人や政府が真摯に理解しなければ問題解決につながらない。

著者は「若者たちは支援が必要な存在だと認識されず、社会福祉の対象として扱われてこなかった」と述べ、社会構造を変えるべきと指摘する。具体的には新しい労働組合への参加と労働組合活動の復権、スカラシップ（奨学金）の導入と富裕層への課税、子どもの貧困対策、家賃補助制度などを示す。

コラムとして挿入している、18歳選挙権への期待や、スキーバス事故に見える若者と高齢者の貧困など、現代の貧困を知る実例として読み応えがある。（講談社現代新書　222頁　定価821円）